

NIPPON KAYAKU GROUP

CSR REPORT 2020



日本化薬グループのCSR

世界的な学びを発想。

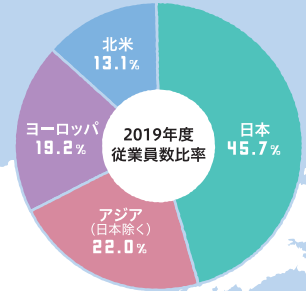


ABOUT
NIPPON KAYAKU
GROUP

持続可能な社会の実現に向けて

日本化薬グループは、事業を通じて「生命と健康を守る」「豊かな暮らしを支える」最良の製品・技術・サービスを提供し、すべての人々が健康でいきいきと豊かに暮らせる持続可能な社会・環境の実現に貢献します。

地域別従業員数比率(連結)



ASIA

中国

- 無錫宝来光学科技有限公司
- POLATECHNO (HONG KONG) CO. LIMITED
- 無錫先進化学化工有限公司
- 化学化工(無錫)有限公司
- 上海化耀国际贸易有限公司
- 化薬(湖州)安全器材有限公司
- 化薬(上海)管理有限公司

韓国

- Nippon Kayaku Korea Co., Ltd.

台湾

- 台湾日化股份有限公司

タイ

- NIPPON KAYAKU (THAILAND) CO., LTD.

マレーシア

- Kayaku Safety Systems Malaysia Sdn. Bhd.

JAPAN

日本

- 日本化薬株式会社
- 株式会社ボラテクノ
- 株式会社ピクトリーブ
- 株式会社ニッカファインテクノ
- 厚和産業株式会社
- 日本化薬フードテクノ株式会社
- 株式会社TDサポート
- 群南産業株式会社
- 株式会社ナック
- 株式会社西港自動車学校
- 有限会社YMKサービス
- 和光都市開発株式会社
- 株式会社日本人材開発医学研究所
- 株式会社沖浦ゴルフセンター

持分法適用会社

- 株式会社カルティベクス
- 三光化学工業株式会社
- カヤク・ジャパン株式会社
- 化薬ヌーリオン株式会社

EUROPE

オランダ

- Dejima Tech B. V.
- Dejima Optical Films B. V.

イギリス

- RaySpec Ltd.

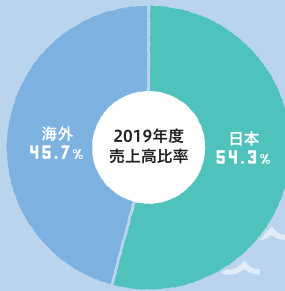
ドイツ

- Euro Nippon Kayaku GmbH

チェコ

- Kayaku Safety Systems Europe a.s.

海外売上高比率(連結)

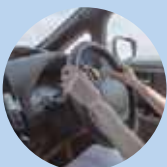


事業概要



機能化学品事業

樹脂・色素・触媒・光学加工をコア技術に、情報・通信、デジタル印刷、省エネ・省資源、センシングの分野へ特徴のある機能化学品を提供し、「超スマート社会」と「SDGs」の実現に貢献します



セイフティシステムズ事業

自動車安全部品で培った技術をベースに、進化するモビリティテクノロジーに対応した新たな安全部品を開発し、世界中のより多くの人々に安全を提供します



医薬事業

得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給、情報提供により、医療の向上を通じて社会に貢献します



アグロ事業

環境にやさしい優れたアグロケミカルを、その技術・サービスとともに提供し、食糧供給を支え、持続可能な農業の発展に貢献し続けます

売上高比率を
CHECK!

COMPANY PROFILE (会社概要 : 2020年3月31日現在)

会社名	日本化薬株式会社
設立	1916年(大正5年)6月5日
資本金	149億3千2百万円
本社所在地	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
電話番号	03-6731-5200(代)
グループ会社	子会社35社 持分法適用会社4社
従業員数	単体:2,069人/連結全体:5,847人
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
決算資料	詳しくはWEBで→ https://www.nipponkayaku.co.jp/ir/library/

[凡例]

- 本社
- 機能化学品事業
- 医薬事業
- セーフティシステムズ事業
- その他の事業

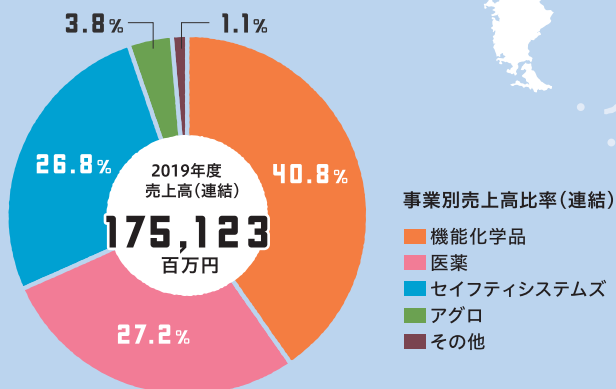
NORTH AMERICA

アメリカ

- MOXTEK, Inc.
- KAYAKU Advanced Materials, Inc.
- THE GILMORE ROAD PROPERTY, LLC
- NIPPON KAYAKU AMERICA, INC.

メキシコ

- Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A de C.V.



CONTENTS 目次

- 04 | トップメッセージ
- 06 | 豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在および未来の製品や技術
- 08 | CSRマネジメント

SOCIAL (社会)

- 10 | 事業を通じたイノベーション
- 12 | 雇用の維持・拡大と人材育成
- 13 | 品質と顧客の安全
- 14 | 地域コミュニティ
- 15 | 取引先のアセスメント

ENVIRONMENT (環境)

- 16 | エネルギー消費量と温室効果ガス・排水および廃棄物

GOVERNANCE (ガバナンス)

- 18 | コンプライアンス
- 19 | 職場の労働安全衛生

編集方針

日本化薬グループは「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える最良の製品・技術・サービスを提供し続ける」企業として、持続可能な社会と環境に貢献し、すべてのステークホルダーの信頼に応えてまいります。

本冊子は、当社グループの活動内容をステークホルダーの皆さまに知っていただくために2019年度のトピックの一部を簡潔にまとめたコミュニケーションツールとして位置づけています。CSR活動の詳細はウェブサイトのCSR情報や統合報告書をご覧ください。

● 報告対象期間

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)
※環境データの一部、海外グループ会社については、2019年1月1日～2019年12月31日を報告期間としています
※一部情報には2020年4月以降のものも含まれています

● 参照したガイドライン

ISO26000
GRIスタンダード
環境省「環境会計ガイドライン2005年版」

● 報告対象組織

日本化薬株式会社、国内外のグループ会社
※一部単体のみのデータを記載しています

● 発行月

2020年6月(前回: 2019年6月)

A portrait of a middle-aged man with grey hair and glasses, wearing a dark grey suit, white shirt, and a patterned yellow tie. He is smiling and has his arms crossed. The background is a blurred office interior with windows.

NIPPON KAYAKU GROUP

TOP MESSAGE

企業ビジョンであるKAYAKU spiritを実践し、
事業を通じて持続可能な社会・環境に貢献し続けます

代表取締役社長

涌元厚宏

私が KAYAKU spirit の中で特に大切にしているのは、 「良心の結合」という言葉

CSRレポート2020の発行に当たりご挨拶申し上げます。

私たち日本化薬グループはKAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を企業ビジョンとしています。KAYAKU spiritは、一人ひとりの良き心を結び合うという「良心の結合」のもと、途切れることなく進歩を続けるという「不断の進歩」によって、世の中に必要とされる「最良の製品」を提供し、社会に貢献し続けようという、当社グループ共通の理念です。

当社グループは、KAYAKU spiritを実現し、すべてのステークホルダーの信頼に応えるため、CSR重要課題（マテリアリティ）を特定し、中長期重点課題と連動した中期CSRアクションプランに取り組んでいます。本CSRレポート冊子版では、日本化薬グループのCSR重要課題（マテリアリティ）の取り組みの一部をトピックスとしてご紹介しています。コミュニケーションツールとしてご活用いただき、より詳細版として公開いたしますウェブサイトも合わせてご覧のうえ、当社グループのCSR経営へのご理解をいただければ幸いです。

KAYAKU spiritの中で、私自身は特に「良心の結合」という言葉を大事にしており、KAYAKU spiritの実現のために、私は日本化薬グループのすべての社員が仕事を通じて幸福を感じられる企業にしたいと考えています。私たちが仕事をする上で、経済的な安定や健康で安全な労働環境などはもちろんとても大切なことですが、自分が成長できている、周囲を信頼できている、自分は貢献できている……といった、実感を伴う幸福感が不可欠だと思います。幸福感を得た一人ひとりが、お互いのことを思い合いながら、全員で力を合わせてより高い目的、目標を実現していく、そのような環境を整えてまいります。

日本化薬グループの一人ひとりが、自分の仕事を通じて、持続可能な社会にどのような価値を提供することができるかを真摯に考え、一丸となって取り組む、それによって日本化薬グループが社会からも必要とされる企業となる、私はこれを先導していくつもりです。

世界では、人口の増加に伴う食料・水の不足、児童労働など労働環境に関する問題、地球温暖化の進行など、気候変動に関する「パリ協定」や国連の「持続可能な開発目標

(SDGs)」で提起された課題が山積しています。当社グループの事業環境では、IoTをはじめとする高度情報化社会が進展する中で、より高機能で省エネルギー・省資源・低環境負荷の化学品素材が求められています。医療分野では、国内の医療費の増大が社会的な問題となっています。自動車社会は世界中で拡大を続けており、車の安全性向上はさらに重要な課題となっています。当社グループには機能化学品事業、医薬事業、セイフティシステムズ事業、アグロ事業があり、これらを解決するために日々取り組んでいます。

一方で、私たち化学産業には長期的な環境面のリスクと機会を捉えた事業運営を行うことも求められています。これらは非常に難しい課題ですが、当社グループには「世界的すきま発想。」というコーポレート・スローガンがあります。「あり得ない」と思考停止するのではなく、「もしかしたら結び付くのではないか？」というフレキシブルで多角的な考え方を大事にすることで解決策を見出し、事業を通じて社会に必要な価値を提供し続けていきたいと考えています。

2019年度はその終盤から新型コロナウイルス感染症により世界中が大きな影響を受けました。当社グループでは変化する状況をグローバルに把握・対応することで、従業員の安全を確保しつつ、影響を最小限に留めるべく努力を続けています。ただ、このようなときだからこそ、私たちが持続可能な社会や環境のために何を優先的に取り組む必要があるのかを、あらためて考える機会にしていきたいと考えています。当社では現在、経営層・事業部門・一般管理部門が一体となって「ありたい姿」の議論を進めています。今後、世界経済への不透明感が懸念される中でも、働き方や社会環境の大きな変化に対応していく必要があります。持続可能な社会に必要なとされる当社グループの「ありたい姿」や、事業を通じて提供できる価値をあらためて考え、そのための取り組みを、スピード感を持って推進していきます。

今後もコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスの徹底、環境への配慮を重視し、高い倫理観を持ってCSR経営を実践しながら企業価値を高めてまいります。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

豊かな生活を目指した日本化薬グループの 現在および未来の製品や技術

ドローン向け非常用パラシュート安全装置

土木用火薬、爆薬、破砕剤類
含水爆薬、アンホ爆薬
電気雷管、非火薬破砕剤

フレキシブルディスプレイ
ウェアラブルパソコン
有機半導体

印刷材料
感熱顕色剤

偏光サングラス
偏光素膜

デジタルカメラ
微細カラーフィルタ用カラーレジスト
ブラックマトリックス用樹脂

プロジェクター
偏光フィルム
無機偏光板

スマートフォン、タブレット
カラーレジスト用樹脂、カラーフィルタ用色素
半導体封止材用エポキシ樹脂
フラッシュLED封止用ハイブリッド樹脂
液晶シール剤、コート用樹脂、タッチパネル用接着剤

菓子
品質保持剤

のぼり旗
捺染用インクジェット色素

食品
健康食品原料

洋服
染料

衛生用品
ウエットクロス

カーテンエアバッグ
インフレーター

ダンボール
紙用染料

除菌スプレー
エタノール製剤

自動車用ウィンドウ
熱制御フィルム

農業
殺虫剤、除草剤、
土壌くん蒸剤

ケーブル保護
防鼠剤
害虫駆除
防疫剤

機能化学品事業

医薬事業

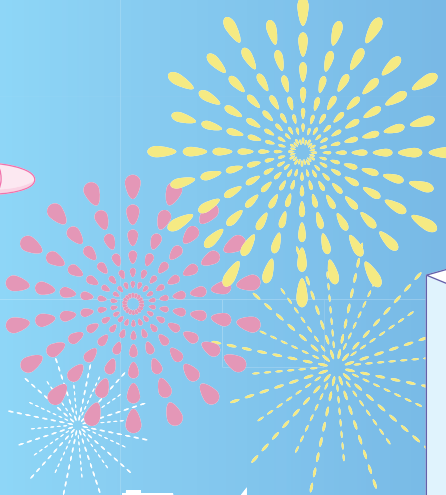
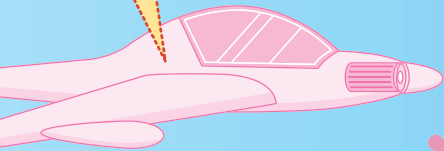
セイフティシステムズ事業

アグロ事業

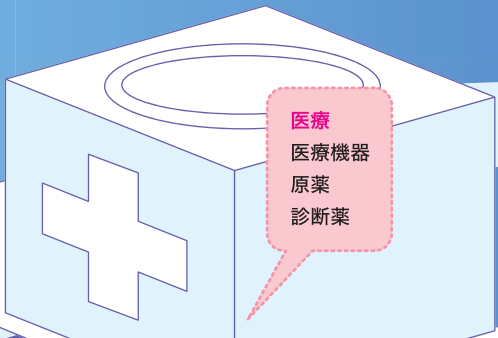
その他

未来の技術や製品

CFRP
マトリックス樹脂

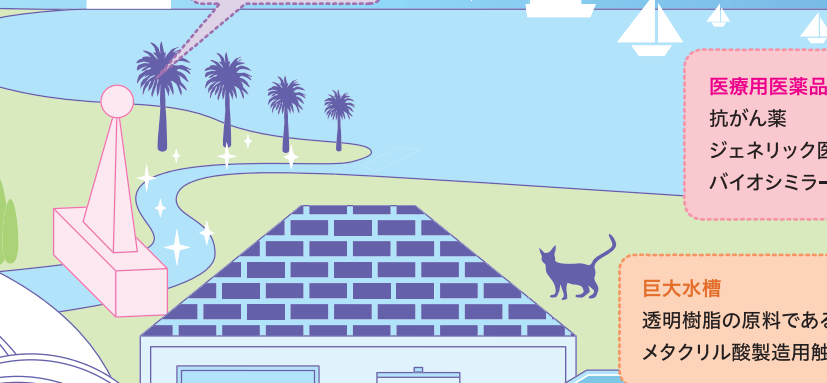


花火
黒色火薬
煙火用火工品



医療
医療機器
原薬
診断薬

廃水処理技術
水をきれいにし
自然にかえす技術



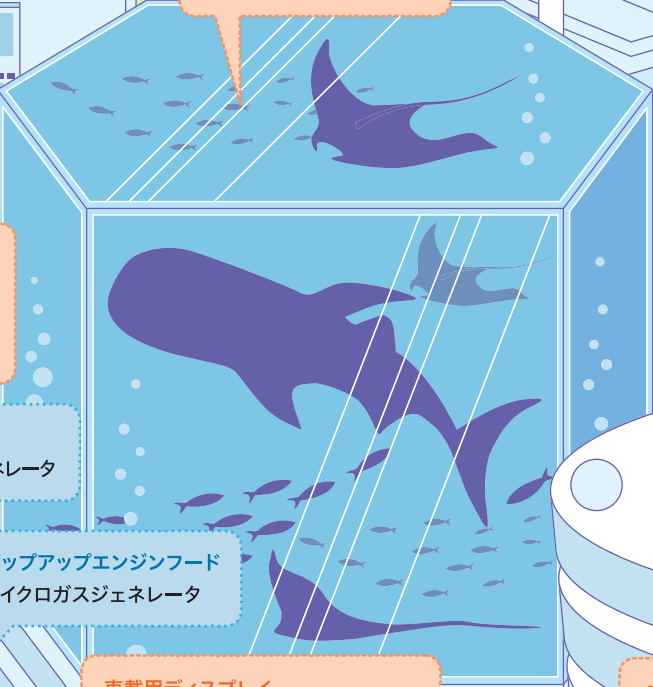
医療用医薬品
抗がん薬
ジェネリック医薬品
バイオシミラー

抗がん薬内包高分子ミセル

医療用センサー
エネルギー変換材料



巨大水槽
透明樹脂の原料である
メタクリル酸製造用触媒



おむつ
高吸水性樹脂の原料
であるアクリル酸製造
用触媒



トイレトペーパー
紙用染料

シートベルト
マイクロガスジェネレータ

ポップアップエンジンフード
マイクロガスジェネレータ

車載用シート
染料
シートベルト
染料

ディスプレイ
半導体封止材用エポキシ樹脂
液晶シール剤
液晶パネルスペーサー用樹脂
カラーレジスト用樹脂
コート用樹脂
プリント基板用樹脂
機能性フィルム
カラーフィルタ用色素
赤外線吸収剤

車載用ディスプレイ
液晶ディスプレイ用フィルム
液晶シール剤

エンジン
モーター制御半導体用エポキシ樹脂
プリント基板用樹脂

ふせん
紙用染料

自動車用センサー
エネルギー変換材料

ヘッドアップディスプレイ
光制御フィルム

エアバッグ
インフレーター
サイドエアバッグ
インフレーター



CFRP
マトリックス樹脂

アクリル塗料、ライトカバー
塗料・部品の原料である
アクリル酸製造用触媒、
樹脂接着剤



光ディスク
接着剤
コート剤

プリンター
インクジェット
プリンタ用色素

WHAT'S
CSR
MANAGEMENT

CSRマネジメント



KAYAKU spirit の
実現のためだよ

日本化薬グループは、KAYAKU spirit
「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に
提供し続けること」を実現することにより、
すべてのステークホルダーの信頼に応えるCSR経営を推進しています。

KAYAKU spirit と CSR 経営

KAYAKU spirit の「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」は、日本化薬グループの企業ビジョンです。これは50年以上前に制定された社是「良心の結合」「不断の進歩」「最良の製品」を基にして長く受け継がれてきたCSR経営の原点です。私たちは企業ビジョンKAYAKU spiritを実現するための社員一人ひとりの日々の企業活動そのものをCSR経営と位置づけています。

■ CSR重要課題と中期事業計画 KAYAKU Next Stage

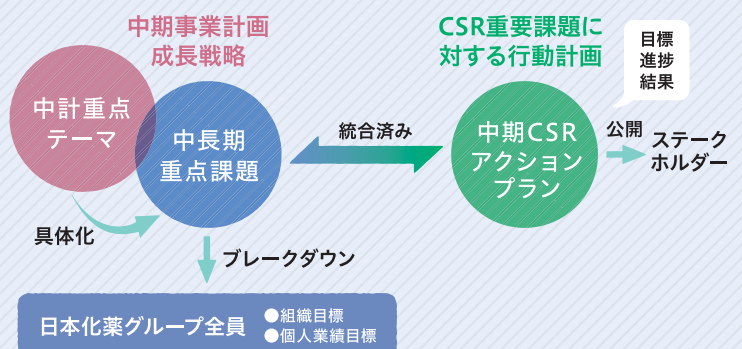
外部にとっての重要度と自社にとっての重要度をポイント化する手法を用い、当社グループのCSR重要課題（マテリアリティ）を特定しました。それを基に中期CSRアクションプラン2019-2021を策定し、目標を定めて取り組んでいます。今後、進捗状況を確認・評価しながら中長期的な取り組みを継続的に行っていきます。

中期CSRアクションプランの課題と目標は、中期事業計画 KAYAKU Next Stage の重点テーマを、より具体化するために各部署で設定した「中長期重点課題」と統合されています。「中長期重点課題」は、日本化薬グループ全体で、より具体的な組織の目標へ、さらに私たちそれぞれの個人の業績目標へとつながっています。そのため中期CSRアクションプランは、事業戦略と一体になっており、私たち全員で実践するという仕組みです。



[CSR経営の実行]

KAYAKU Next Stage



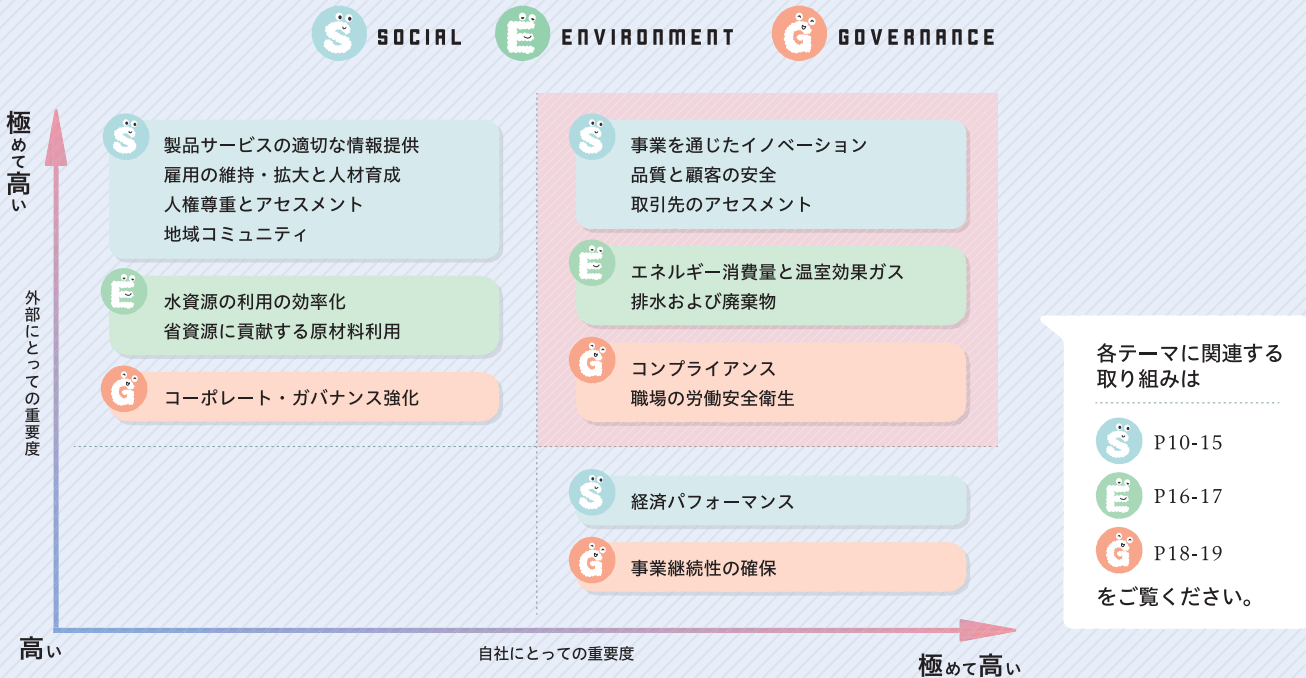
詳しくはWEBをCHECK!



- CSRマネジメント
- 企業ビジョンとCSR経営
- 重要課題とアクションプラン
- コンプライアンス



■ 日本化薬グループのCSR重要課題(マテリアリティ)

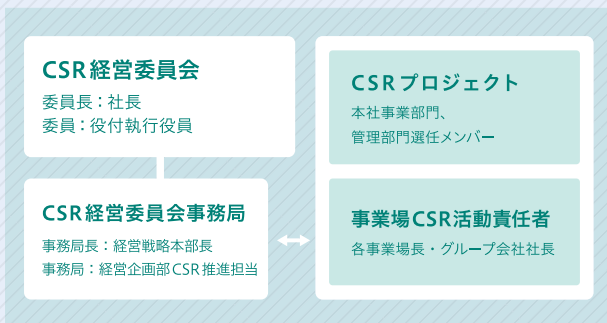


各テーマに関連する取り組みは

- S P10-15
 - E P16-17
 - G P18-19
- をご覧ください。

CSR推進体制

社長を委員長とするCSR経営委員会を設置し、経営戦略本部経営企画部にCSR推進担当を組織しています。CSRアクションプランの目標や結果はCSR経営委員会にて審議、決議してトップダウンで推進しています。また、CSR推進担当は組織横断的なCSRプロジェクトを運営し、各部門・事業場やグループ会社が主体的に取り組む体制をとっています。



● 人権の尊重とKAYAKU spirit

KAYAKU spiritには「良心の結合」という言葉があります。私たちは、企業活動のあらゆる側面においてすべての人々の「人権を尊重」することが企業経営の基本であると考えています。

- 日本化薬グループの行動憲章、行動基準を定めています

2019年度
改定しました

● SDGsとKAYAKU spirit

私たちが古くから取り組んできたKAYAKU spiritの実現のための企業活動は、国連の目標とは規模やターゲットが異なるものの、SDGsの実現と合致します。今後、当社グループの取り組みを、SDGsの共通言語でも発信できるように進めていきます。





INNOVATION

事業を通じたイノベーション

日本化薬グループは、約100年の歴史の中で培ってきた多様な要素技術を生かして、コア事業およびシナジー領域における新製品・新事業を創出するために取り組んでいます。要素技術を磨き、オープンイノベーションを活用し、将来の成長を支えるコーポレート研究にも取り組みながら、生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える最良の製品・技術・サービスを提供し続け、事業を通じて持続可能な社会に貢献します。



上:パラシュートが開いたとき
右:ドローンに載った実際の安全装置

セーフティシステムズ事業

ドローン用「安全装置」への挑戦

セーフティシステムズ事業本部は、自動車安全装置の重要部品として「インフレータ」や「マイクロガスジェネレータ」などのガス発生装置を開発、製造、販売しています。これらのガス発生装置の事業には、日本化薬が創業以来鍛え上げてきた火薬の技術がたくさん盛り込まれています。セーフティシステムズ開発研究所では、この火薬技術を活用して、日々新たな製品の開発に励んでいますが、この技術で別の分野へ進出できないかと検討をしました。

■ 新規テーマ創出プロジェクト発足

研究所の若手メンバーが中心になり新規テーマ創出プロジェクトを立ち上げ、合宿やワイガヤ活動を通じて議論を重ねた結果、提案テーマとして出てきたのがドローン用の安全装置の開発でした。ドローンは、近年その技術革新や用途開発が目覚ましく、将来、社会で広く使われると見込まれています。私たちは、そのドローンの成長性に着目し、その安全装置を、火薬の技術を使って実現しようと思いい立ちました。火薬は少量で大きな力を出しますので、飛行性能を上げるために、小型軽量な特性が求められるドローンのデバイスとして最適であると考えたのです。

■ 技術的な課題とイノベーション要因

火薬の力を利用して、パラシュートを射出する機構を具体化しました。緊急時にドローンが落下する際にパラシュートが飛び出し、減速して降下することで、ドローンの衝突の衝撃を緩和し、下にいる人を守る安全装置です。火薬は力が強い反面、その取り扱いに注意しないと危険な面もあるので、慎重に強度設計を繰り返しました。また、ドローンに載せるには、その飛行を阻害しないように極力軽く、小型にする必要があるため、無駄なスペースや部品を無くしました。作った安全装置はドローンに載せて屋外のテストフィールドで飛行落下テストをして、その効果を確認しています。



研究所の若手メンバーが中心

開発やテストはたくさんのコンポーネントが関与するのでチームワークが重要



フィールドに出て繰り返し行うドローンの飛行、落下テスト

詳しくはWEBをCHECK!

他にもさまざまな取り組みをしています

- 日本化薬グループの事業
- 日本化薬の研究開発
- 日本化薬グループ内での交流



イノベーションは研究開発に限らず
“今までにない取り組みから新しい
価値を生み出す”ということだよ



米国での
ベンチマーク
テスト

米国でのドローン飛行テストにもトライ

■ 積極的にオープンイノベーションを活用

日本化薬は、火薬や自動車安全部品については、たくさんの技術の蓄積がありますが、ドローンやパラシュートは、未知の領域です。こうした未知の分野については、外部の企業やコンサルタント、大学の研究室の協力を得て、完成させていきました。また、ドローンの落下時の安全装置ですので、実際の試験には、大きなテストフィールドが必要になります。日本化薬グループの工場に敷地を借りて、大型クレーンからの落下、射出試験を繰り返し、安全装置としての信頼性を向上させました。事業の立ち上げには、こうしたコンセプトを早期に市場に紹介して、その声を聞くことが重要と考え、展示会にも積極的に出展し、私たちの安全装置を使ってくれるお客様を探しています。



大型クレーンを使った投下試験を実施



ドローンの仕組みやシステムの制御方法を外部講師から学び習得

ドローンの開発は海外でも活発なので、海外の協力会社との情報交換も積極的に行っています。特に米国では、競合の製品を入手し、協力企業の助けを借りながらベンチマークテストをして、自社開発品の差別化を進めています。このようなイノベーション活動を通じて、早期に競争力のあるドローン安全装置を作り上げ、社会に貢献したいと考えています。

CLOSE UP!

最先端技術への挑戦

機能化学品事業



研究所・工場が
一体となって新製造
技術を確立!

5G向け新製品、ついに製造販売開始!

私たちは、次世代高速通信5Gシステムに向けた新製品を開発しました。それは高速通信向けの樹脂、マレイミド樹脂MIR-3000です。日本化薬グループは電子部品向け高純度エポキシ樹脂でトップシェアを有しますが、この製品は従来のエポキシ樹脂では実現できなかった高速通信向けの電気特性を持ち、従来のマレイミド樹脂とは異なり加工成形性が良いことが特長の、当社が得意とするビフェニル骨格を持つマレイミド樹脂です。機能化学品研究所では、10年以上前から将来を予測し、高速通信向けに開発を行っていました。本社・研究所・工場が一体となって、新しい製法、新しい原料、新しい設備等の対応に取り組み、このマレイミド新製品の製造・販売を実現。私たちはこの新製品マレイミド樹脂で、高速通信が支える豊かな超スマート社会の実現に貢献していきます。





WITH EMPLOYEES

雇用の維持・拡大と人材育成

企業活動の主体は“人”。従業員一人ひとりの人権を尊重し、安心して働ける職場環境の整備に努め、仕事を通じて従業員が自らの成長と働きがいを感じられる会社を目指しています。

詳しくはWEBをCHECK!

- ダイバーシティ&インクルージョン
- 人材育成
- 知的財産創出の促進と補償
- 日本化薬グループの健康経営

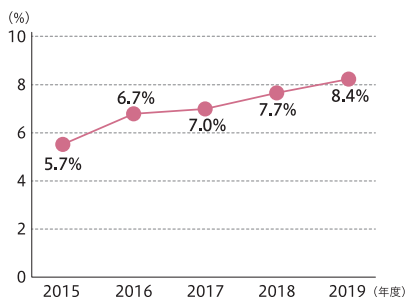


一人ひとりが意欲を持って活躍できる！
そんな支援が必要なんだ



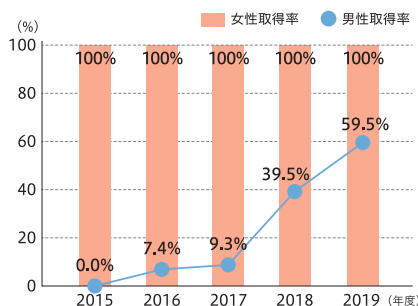
ダイバーシティの推進

女性管理職比率



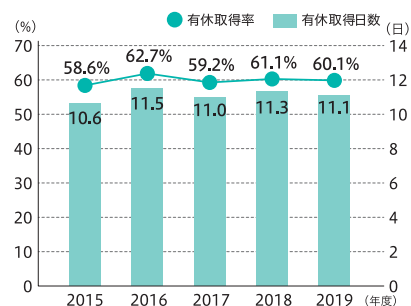
男女共同参画

育児休業取得率



ワーク・ライフ・バランスの充実

有給休暇取得率・日数



ワーク・ライフ・
バランスの充実で
生産性が向上!

VOICE!

それぞれの楽しめる働き方を見つけることこそ、ダイバーシティにつながる

●医薬事業本部 信頼性保証本部長・総括製造販売責任者 永井 祐子

研究所で医薬品の試験方法などを検討する職務を経た後、1999年に本社に異動となりました。当時、本社の女性管理職はほとんどいませんでしたが、その後増え、当社も変わってきたと実感しています。私が所属する信頼性保証本部は、当社医薬事業本部の製品について信頼性を保証する業務を行っていますが、今では8人の部長・室長の内で半数の4人が女性です。

また、当社は、育児休暇・勤務制度が充実し、私自身も利用しました。子育ての経験は、マネジメントスキルにプラスになると思います。子育て前は「努力をすれば必ず報われる」と考えていたのですが、赤ん坊は努力を見てくれ

ず、思い通りにならない時間が続きます。その間、その子に合った楽しみや幸せは何かと、模索している間に、いつの間にか驚くほど成長しているのです。マネジメントもその人に合った喜び（強み）は何かと一緒に悩んでいる間に、いつの間にか良い結果を出してくれる、そんな感じです。女性は、こういったマネジメントは得意なのかもしれません。

個人や性別で、性格やスキルに差があるのは当然だと思います。その人それぞれの楽しめる働き方を見つけることが、ダイバーシティにつながるのではと考えています。



詳しくはWEBをCHECK!

WITH CUSTOMERS

品質と顧客の安全

日本化薬グループは、お客様に最良の製品を提供するため、品質保証体制を整備し全社的に品質向上活動を行っています。また、製品の安全性・信頼性に配慮し、技術サービスや情報提供がお客様の満足度向上につながるよう活動しています。

- 環境・健康・安全と品質に関する宣言
- 品質保証体制
- 品質保証・品質向上活動の推進
- 各事業場での品質保証活動・品質向上活動



お客様に安心してご利用いただくための活動を紹介します



日本化薬グループ

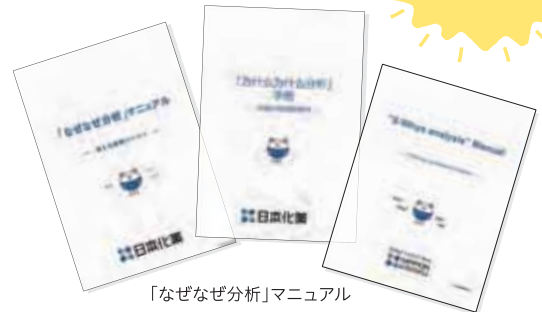
品質経営の考え方

日本化薬グループでは、お客様の満足する「最良の製品」を提供し続けるために、「環境・健康・安全と品質に関する宣言」を基本方針としたマネジメントシステムを構築して、全社的に、品質に対するさまざまな取り組みを展開し、顧客満足度を向上させる品質保証、品質向上の活動に取り組んでいます。

■日本化薬グループの「なぜなぜ分析」マニュアルを作成

品質経営推進部では、過去に発生した品質異常を解析したところ似通った事例が多くあったことから、原因の根本にあるものを追究する力が不足していると分析しました。そこで原因と結果の関係を正確に把握し、背後にある“根本原因”を炙り出し、類似事例の再発を防止する

ことを目指して「なぜなぜ分析」を導入しています。また各工場からメンバーを集めて当社版「なぜなぜ分析」マニュアルを作成していますが、このマニュアルはこれまでに作成した日本語版と中国語版の他、新たに英語版も作成しています。



「なぜなぜ分析」マニュアル

PICK UP ACTIVITY

姫路工場 若手社員の育成と品質向上

姫路工場は自動車安全部品を扱うセイフティシステムズ事業の国内製造拠点であるとともに、海外拠点のマザー工場としての役割も担っています。事業のグローバルな拡大に伴い当工場でも増産が続き、現在は日本化薬の国内工場で最多の従業員数となっています。

このような背景から、当工場では新規採用などにより若手社員が急増しており、その育成が課題となっていました。そこで、若手社員に重点を置いた体系的な教育システムを構築し、2019年度よりスタートしました。当プログラムにより社員の能力を底上げし、製品品質・業務品質を向上させていきたいと考えています。2018年度より実施している中堅社員向けの品質教育と両輪で人材育成を進めています。

当プログラムでは座学だけではなく体験型の教育も取り入れています。たとえば、おもちゃのブロックを製品に模して「かんぱん生産」の有効性を学ぶ教育や、当工場では危険な火薬を取り扱っていますので、現物の製品を用いて正しい取り扱い方を習得できるような教育などもあります。1年間実施しての振り返りを行い、来年度は引き続きプログラムの改善を図っていきます。



姫路工場教育プログラムの様子

品質維持向上のためには従業員の育成も必要



WITH COMMUNITY

地域コミュニティ

日本化薬グループは、地域社会の活動に参加し、次世代を担う人材の教育支援やステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを活発に行い、地域に根付いた会社となることを目指しています。

詳しくはWEBをCHECK!

- 健康で豊かに暮らせる社会づくり
- 次世代育成支援
- 地域への取り組み



地域の方から愛される会社でありたいね



日本化薬グループ

難病とたたかう子どもと家族の滞在施設「あすなろの家」

「難病とたたかうお子さんとご家族の手助けに」を合言葉に、1998年に日本化薬創立80周年記念事業の一環として、病気のお子さんに付き添われるご家族用の滞在施設として埼玉県さいたま市に「あすなろの家」を開設し運営しています。

あすなろの家を利用されるご家族の皆さまに気持ちよく滞在いただけるよう、2018年から年2回、日本化薬と関係会社の従業員やOBによる清掃や草刈りなどのボランティア活動を行っています。

利用されるご家族のプライバシーを守りつつ、そのご家族同士の交流を図ることができるように、またご家族にとって精神的・経済的なご負担の軽減にお役にたてる施設となるように努めています。

3,572人
延べ年間[※]利用者数
年間利用家族数 105家族
※2019年1月～12月



ハウスマネージャー



従業員やOBによる清掃や草刈りなどのボランティア活動

PICK UP ACTIVITY

KSE 従業員発、養護施設への寄付活動

KSE[※]は2019年12月にチェコの町、バラシュスケメジジーチーにある養護施設へ30,137コルナの寄付を行いました。このお金はKSEの従業員たちから集めたもので、養護施設での活動費（映画や動物園に行くなど）に使用される予定です。

養護施設の子どもたちだけでなく施設の運営者たちもこの寄付に大変満足され、感謝されました。家族と一緒に生活のできない子どもたちにとっての最高のクリスマスプレゼントになったと考えています。

KSEはこの他にも病院、慈善団体、青少年向けスポーツクラブ、学校、その他の教育・文化関連活動団体への寄付を行っています。従業員からも寄付を募り、2019年は計1百万コルナ（約460万円）の寄付を行いました。

※KSE: Kayaku Safety Systems Europe a.s. チェコにある自動車安全部品の製造会社



寄付金贈呈式の様子

詳しくはWEBをCHECK!

- サプライチェーンマネジメント
- CSR調達推進
- 医療機関等との関係における透明性に関する取り組み
- 患者団体との関係の透明性に関する取り組み



WITH PARTNERS

取引先のアセスメント

日本化薬グループは購買理念と購買基本方針およびCSR調達ガイドラインを定めています。研究・開発から原材料の調達、製造、販売、物流までのサプライチェーンにおけるすべての段階において取引先の皆さまと一緒に安定調達や安定供給に努めることが重要であると認識しています。持続可能な社会を実現するため、一体となって法令遵守や人権尊重、労働安全衛生などに努めていきます。

日本化薬グループ

取引先の環境面と社会面のアセスメント

2019年度は取引先（約900社）にCSRアンケートを実施しました。取引先の環境保全の取り組みを確認し、回答いただいた取引先（318社）においては、マイナス環境インパクトがないことを確認しました。また、社会的な取り組みとしてハラスメント、差別、強制労働、不適切な労働時間や賃金などの反社会的行為がないことを確認しました。今後もリスク管理の一環として、これらの活動を継続していきます。

■ BCP(事業継続計画) 調達への取り組み

日本化薬では日頃からサプライチェーンでの災害や事故情報の入手に努めており、情報を入手した際は即、社

内のデータベースにて情報を共有するとともに、直ちに該当原産国やメーカーの原材料一覧をピックアップし、在庫、調達への影響、工場の再開状況、製造への影響を確認しています。BCP対策として多くの品目が複数購買化されていますが、さまざまな状況に対応するため、さらに取り組みを強化していきます。



CSR調達ガイドブック



CSR調達の推進!

KSM 継続的な教育サポートの実施

KSM*では、従業員の福祉を大切にするため、従業員の子どものための学習支援プログラムを2014年から実施しています。2019年8月には、29人の従業員の子どものための教育を支援するイベントを開催しました。

イベントでは参加した子どもたちそれぞれが「安全第一」「高い品質」「日本化薬グループの企業ビジョンKAYAKU spirit」「地球環境への配慮」などをテーマに、日本化薬のマスコットキャラクターである「かやくーま」をモチーフとして絵を描きました。そして、イベントの終わりには、保護者の負担を軽減し問題なく通学を続けられるように、必要な学用品一式が入ったバックパックを子どもたちに提供しました。

*KSM: Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V. メキシコにある自動車安全部品の製造会社



プレゼントした学用品を手にもみんなで集合写真を撮影

次世代教育支援活動に積極的に取り組んでいます





詳しくはWEBをCHECK!

- 環境保全活動の推進
- 環境負荷低減の取り組み結果
- 環境関連データ集



WITH GLOBAL ENVIRONMENT

エネルギー消費量と温室効果 ガス・排水および廃棄物

日本化薬グループはCSR理念とレスポンシブル・ケア精神による「環境・健康・安全と品質に関する宣言」に基づき、持続可能な社会を実現するため「安全第一」「環境経営」「健康経営」につながる活動を展開しています。地球環境を守るために、また「環境経営」につながる活動として、今後も社会情勢と気候変動などの地球環境の変化による「リスクと機会」を認識しながら活動を続けていきます。

製品のライフサイクルも考えた、環境負荷の低い開発・製造が求められます



日本化薬単体 中期環境目標と2019年度の実績

	地球温暖化防止	化学物質排出量削減		廃棄物削減		
	エネルギー起源CO ₂ 排出量 ^{※1} (生産部門+業務部門)	VOC ^{※2} 排出量	COD ^{※3} 排出量	廃棄物発生量	リサイクル率	ゼロエミッション率 ^{※4}
2019年度実績	69.2 千トン	28.6 トン	145.2 トン	23,204 ^{※5} トン	84.4%	3.6%
前年度比	0.7% 減	11.8% 増	9.8% 増	8.0% 増	3.0 ポイント増	0.4 ポイント減
2020年度目標値	79.5 千トン以下	42 トン以下	150 トン以下	23,500 トン以下	80% 以上	3.0% 以下

※1 エネルギー起源CO₂排出量:2005年度(82.6千トン)を基準として3.8%削減が政府方針

※2 VOC: Volatile Organic Compounds(揮発性有機化学物質、集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含めて管理)

※3 COD: Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量、水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標の一つ)

※4 ゼロエミッション率:日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義 ※5 工場外移動量 18,615トン 内、産業廃棄物最終埋立処分量 844トン

■ 気候変動対応について

2015年開催のCOP21[※]において採択された「パリ協定」では、産業革命前からの世界の平均気温上昇を「2℃未満」に抑え、また「1.5℃未満」を目指す努力をすることを目的として、各国が国家レベルでのCO₂排出削減目標を約束しています。日本化薬グループでは2020年度中期環境目標においてエネルギー起源CO₂排出量削減の目標範囲を単体としていましたが、2030年度までの新中期環境目標ではこの流れに沿うように、海外拠点を含む日本化薬グループ全体まで拡大し、気候変動に対応した活動をしていくことで、地球温暖化の原因となるCO₂の排出量の削減を目指し進めていきます。



姫路工場に設置されている太陽光パネル

太陽光発電システムが稼働!

※COP21:第21回気候変動枠組条約締約国会議。フランスのパリ近郊で開催され、2020年で失効する京都議定書以降の新たな枠組みにおいて、全196カ国が参加するパリ協定が採択された

サプライチェーン全体でのCO₂排出量データ(スコープ3)の開示

近年、企業が間接的に排出するサプライチェーン全体でのCO₂排出量を把握して管理し、対外的に開示する動きが強くなってきています。日本化薬ではこれまで集計して管理していたスコープ1およびスコープ2だけでなく、サプライチェーンにおけるCO₂排出量：スコープ3の算定を進めています。現状は日本化薬単体の集計ですが、今後は国内および海外グループ会社まで集計の範囲を広げていく予

定です。これからも引き続き環境省発行の「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」に基づき、データの集計および管理を進めることで、サプライチェーン全体のCO₂排出量削減への取り組みを計画的に進めていく予定です。(2017年度と2018年度の集計結果をWEB版に掲載しています。)

スコープ1 事業者自ら所有または管理する排出源から発生する温室効果ガスの直接排出(燃料の使用、製造プロセスからの排出など)

スコープ2 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出(購入した電力の使用など)

スコープ3 スコープ2以外の間接排出(原材料の調達、従業員の通勤、出張、廃棄物の処理委託、製品の使用、廃棄など)

■ MFCA(マテリアルフローコスト会計)導入の推進

日本化薬は、これまでも環境負荷低減の取り組みにより製造工程中の省エネルギー化や省資源化を進めてきましたが、この環境負荷低減の取り組みを「環境経営」の機会と捉え、MFCA(マテリアルフローコスト会計:Material Flow Cost Accounting)の導入を推進しています。MFCAを導入して製造工程中のエネルギーロスとマテリアルロスを抽出し、さらにこれらを明確にすることによって、生産活動で継続的に環境負荷低減ができるだけでなく、コストダウンも同時に図ることが可能

となります。

日本化薬では、2018年度下期より福山工場において対象製品を定め、MFCA導入を進めることによって、一定の成果を収めています。また2019年度は東京工場と厚狭工場においてもMFCA導入を進めました。今後もMFCA導入をさらに他工場に展開することで、より一層の省エネルギーと省資源を推進していきます。

PICK UP ACTIVITY

KSE 雨水を活用する施設の導入

KSE^{*}は、環境保護を推進するための設備投資活動の一環として、雨水を効果的に利用するための貯水タンクシステムを2017年度より導入しています。雨水や、製造工室内の湿度管理のための空調から出る排水を、飲用以外の用途として利用することで、水道水の使用量を減らすだけでなく費用の削減にもなります。

2019年は650.5m³相当のタンクを使用しました。2020年には貯水量89m³相当のタンクを増設する予定です。2019年度は計3,612m³の雨水を利用することで金額に換算すると約246万円を削減しました。2020年度は4,887m³(金額で289万円)の削減を見込んでいます。この削減量(額)はKSEのすべての従業員とその家族(約4,000人)が年間で使用する飲料水量に相当します。

気候変動の影響でチェコでは降水量の減少が大きな問題となっている現在、水の再生利用はとても重要です。KSEではこのプロジェクトを通じてKAYAKU spiritの実現に近づけたと考えています。

^{*}KSE: Kayaku Safety Systems Europe a.s. チェコにある自動車安全部品の製造会社



雨水を貯めるタンク
(中央)



会社ごとに地域が
直面する環境問題に
対応してるんだね



詳しくはWEBをCHECK!

- コーポレート・ガバナンス
- 日本化薬グループの行動憲章・行動基準
- コンプライアンスの浸透と醸成



GOVERNANCE

コンプライアンス

日本化薬グループは、コンプライアンスは事業活動の基盤であると考え、法令遵守・社会規範の遵守はもとより、社会からの要請に応えるべきものとして広く捉えて具体的な活動を実施し、継続的な啓発に取り組んでいます。また、私たちは、社会から信頼される企業であるため、そしてすべてのステークホルダーの信頼に応えるため、コーポレート・ガバナンス体制の拡充・強化に取り組んでいます。

日本化薬グループ

コーポレート・ガバナンス

日本化薬グループは、社会から必要とされる企業であり続けたいと考えています。そのために、CSR経営の一環として継続的にコーポレート・ガバナンス体制の拡充・強化を推進しています。その取り組みとして、2020年3月に「コーポレートガバナンス基本方針」を定め、6月には、「指名・報酬諮問委員会」を設置します。

今後も、企業ビジョンKAYAKU spiritに基づき、持続的

な成長と中長期的な企業価値のさらなる向上を図るため、すべてのステークホルダーの皆さまへのタイムリーかつ公正な情報開示や取締役会のチェック機能強化により、経営の透明性、公正性を確保し、引き続きコーポレート・ガバナンスを推進していきます。

■ 日本化薬グループ行動憲章・行動基準の改定

日本化薬グループ行動憲章・行動基準は2000年に制定され、日本化薬グループが社会的責任を果たすため、すべての社員で共有し、私たちの行動の「道しるべ」として位置づけられています。

その後、企業にはさまざまな場面で社会的責任を果たすことが求められるようになり、2020年1月、「人権」「危機管理」「地域社会」「対話」を新たな要素として加え、行動憲章・行動基準の改定を行いました。

今回の改定に合わせて、自分自身の行動の振り返りや職場での気づきなどの活用のために冊子をリニューアルし、国内の日本化薬グループ全社員へ配付しました。新しい「道しるべ」を行動の基本とし、KAYAKU spiritの実現を通じた社会的問題の解決を積極的に目指していきます。

2020年
1月に改定!

日本化薬グループ行動憲章・行動基準

■ コンプライアンス教育研修

日本化薬グループの国内のコンプライアンス教育研修は、毎年テーマを決めて実施している他、職場ごとに定例会議などの場を利用した勉強会や事例を基にした研修を行っています。2019年度コンプライアンス研修はハラスメントの防止やパフォーマンス向上に役立つよう「アンガーマネジメントを学ぼう」という内容で実施しました。すべての社員に対して研修機会とプログラムを提供するために、日本化薬ではeラーニングを中心に研修を実施し、関係会社では、集合研修や研修内容を録画したDVD視聴による研修を行いました。



アンガーマネジメント研修の様子

詳しくはWEBをCHECK!

- 日本化薬グループの健康経営
- 安全衛生活動に対する取り組み



HEALTH AND SAFETY

職場の労働安全衛生

従業員が健康で安全に仕事に取り組めることは、日本化薬グループが成長し、お客様の満足度を向上させるために必要不可欠です。日本化薬グループでは、「安全第一」と「健康経営」につながるさまざまな安全衛生活動や教育訓練を計画的に実施しています。

継続して事業を営むためには事故のない職場づくりが必要だね



機能化学品事業

第14回日本化学工業協会RC（レスポンスイブル・ケア）賞・審査員特別賞を受賞

厚和産業※では、従業員の安全や健康を守るためにさまざまな安全衛生の活動に取り組んできました。①体験型教育訓練機（エスペランサ）12機の自作およびこれらを用いた教育訓練システムの構築、②ヒヤリハットの解析方法を工夫することによる作業現場での効果的なリスク低減の推進、③「健康なくして安全なし」をモットーに従業員の健康保持増進を目的とした「健康増進プロジェクト」の取り組みなど全社を挙げた安全文化構築活動が評価されたことで受賞に至りました。

厚和産業では2018年度以降、無事故無災害を継続していますが、これからも日本化薬グループとして安全文化のさらなるレベルアップを図っていきます。

※厚和産業：厚狭工場関連業務を行うグループ会社

危険を疑似体験!



教育訓練機を用いて事故の怖さと安全作業の重要性を再認識



「健康増進プロジェクト」の一環であるウォーキングイベントの様子

PICK UP ACTIVITY

アグロ事業

クロルピクリン通報訓練を実施しました

アグロ事業では、野菜類の栽培で病虫害から作物を守るために土壌の消毒に使う、「クロルピクリン」を有効成分とする「カヤククロールピクリン」「ドジョウピクリン」「クロピクフロー」などの製剤を扱っています。

2019年10月の訓練では、クロルピクリンを積載したトラックが、高速道路インターチェンジから本線に入った所で運転を誤り側壁に接触し車が横転、クロルピクリンの一部が高速道路脇に落下し、落下した缶は破損して臭気が出ていることを想定した「クロルピクリン物流事故緊急応援出動通報訓練」を実施しました。協定会社、協力事業場と連絡を取り合いながら、事故現場の確認、FAX送信、緊急車両の手配、緊急出動班による緊急車両への機材積み込みと、本番さながら真剣に取り組みました。

万一の事故・災害に備え、訓練を実施しています



通報訓練の様子

NIPPON KAYAKU GROUP CSR REPORT 2020



Cover Photo

- タイトル / 晴天
- 撮影場所 / 千葉県マザー牧場
- 撮影者 / 機能化学品研究所 本橋 隼



● 撮影者のコメント

空、雲、木、花。それぞれの個性をお互いが引き立て合う素晴らしい風景に感動しました。「この感動を後の世代に残したい」という気持ちが、持続可能な社会の実現への推進力になるのだと感じました。

日本化薬株式会社

〒100-0005

東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

TEL:03-6731-5200 (大代表)

1-1, Marunouchi 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo

100-0005, Japan

TEL: +81-3-6731-5200 (main switchboard number)

<https://www.nipponkayaku.co.jp/>

2020年6月発行



この印刷物は環境に配慮し、FSC®認証林および管理された森林からの製品である「FSC®認証紙」、植物油を含有している「ベジタブルオイルインキ（植物油インキ）」、印刷工程で有害な廃液を排出しない「水なし印刷方式」を採用しています。